
過去の話

早希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去の話

【Nコード】

N8375E

【作者名】

早希

【あらすじ】

主人公、三神早希の（みかみさき）過去のこと、仲の良い友達に知れ渡っていく…

プロローグ

プロローグ

昔のことは消せない。

だから、今を大事にしようと思う。

あの頃のような事にはならないように、頑張っていく。

第1話；今の毎日

ピピピ…

「んゝ…朝かあゝ。やっぱり、朝は嫌いだなあゝ…。」

「…よっしゃ！学校行くかあゝ」

ゝ♪♪♪

「ん？？電話だ！！…もしもし？？」

『あんたは、また遅刻する気！？もう、8時過ぎてるよ！！』
「えっ…ヤバっ！今から走って行く！！じゃあ、後でね！」

ハアハア…

ガラッ

「あーやつと来たー！！」

この子は、宮本あいこ。

（みやもとあいこ）

さっきの電話の子です。

正直、恐いっス…。「ごめん！！…っ、疲れた」

「今日も、遅刻かと思ったよゝ」

この子は、橘ありさ。

（たちばな ありさ）

ちよーおっとりしてます。

それに、可愛いのでおモテになられています。

「なあ、今日さあゝ授業めんどくさいから、サボらねえ？？」

「あーうん。あたしは、いいよっ！！ありさは？？」

「あたしも、サボるうゝ」

「よっしゃ!!行くかぁ」

「どこ行く??あいこ」

「じゃあ、マック行くかぁ」

「行く」

「その後、あたしの家に来るう??」

「行くー!!」

「…なんか、堂々とサボってるよね…制服だし、先生たちにバレてるかなあ??」

「いいじゃん。たまには!」

「そうですねえ息抜きは必要ですねえ。」

「…コラー」

「へっ????」

「お前ら、またサボりかー!!!!」

「ヤッベっ!!あれ、学級主任だよっ!」

「マジでっ!」

「きゃ〜」

「走るよっ!!」

「ハイ」

「…楽勝でしたねえ」

「ありさ…は、走るの速すぎ…」

「あんた、じ、自覚ないでしょ??自分が、速いこと。」

「そうですかあ??」

「もうっ!!…さて、行くかぁマックに。」

第2話：会いたくなかった

コソッ

（早希、変じゃない??）

（そーですねえ…ってゆーか、誰??あの男子）

（さ…??…あっ!!外に連れ出された!!…隠れて見よう!!）

「…：久しぶりじゃん、三神」

「私は、会いたく無かったけど」

「：転校したのってあの事が原因なんだろう？」

「あなたには、関係ない」

「：お前、○○中なんだ。ちょうど○○中に友達が居るんだよ。」

「!!…っ…そ、それが何？」

「別に。じゃあな。」

コソッ

（あの人、どっか行ったよ）

（なんか、様子が変わじゃない）

（…あっ！早希が、こっち来る!!早くマックの中に入ろう!!）

「おかえりー早希!!」

「遅いよお、お腹減った」

「ただいまー、ごめんね待たせちゃって。今日はおごるよ」

「「きゃー♪」」

「じゃあ、注文しに行ってくるね」

コソッ

（やっぱり、おかしいよね…早希。）

（うん。早希がおごるなんて、珍しいですう）

（それに、さっきの話…

聞こえなかったし!!）

（さりげなく、聞く…?）

（うん!!）

「ポテト買って来たよ♪」

「ありがとお…話変わるんだけどこのメンバーでプリ撮ったこと無いよねえ」

「そういえば!!親友なんだし『一生ダチ!!』みたいな欲しいよね!」

「ん…食べたら、撮りに行く??」

「行くう♪」

「ウチも!!」

「行こっ!!」

カシャッ

「やっぱり、さっき言った『一生ダチ!!』は入れないと…」

「…出来たよお♪プリ!」

「やっぱり、可愛いよねありさ。」

「うんうん。オーラが違う気がする!」

「そんな事無いですよ」

「…あっ!もう、こんな時間!!…時間は早いね…」

「…ちよっと、おばさんクサイぞ、早希」

「う、うるさいなあ」

「そういえばさあゝマックで話してた男って誰?？」

「ん：前の学校の時のクラスメート」

「ふゝん。早希の、男かと思ったよ。」

「そんなわけないじゃん！」

「家こっちだから：じゃあまた明日ゝ」

「「ばいばい」」

親友か：また、傷つけるのかな：。

その翌日、男子に呼び出された

第3話；過去：

「…何ですか？？」

「お前さあー、強いんだろ？アイツに聞いたんだよ。男子殴ったんだって？マジすげーじゃん。」

ハァ

「…だから何ですか？？」

「俺らにも、殴り方教えてよ。」

「お断りします。さようなら。」

「…あゝあ、逃げちゃったよーどうするの？」

「アイツに聞か。」

「なんだったの？？男子に呼び出されたけど…」

「たいしたことないよ」

「大丈夫ですかあゝ？？…そういえば！この前のプリですう。切ってきました」

「「アリガトー！！」」

「みんなで、携帯に貼ろ！」

「親友なんだし、いろいろ相談してよー」

「そうですよー親友なんだから」

「大丈夫だよー心配し過ぎ！」

数日後：ありさ学校に来なくなり…

また、男子に呼び出された

「…なんですか？」

「お前に会いたいわって言うてるヤツがいるんだよ」

「なんで、私なんですか？」

「お前の前の学校のヤツ」

「……」

「！！つまた、あなたですか……」 ハア

「……ちよつと良いこと思いついてな……」

「……きゃっ！ちよつと止めてよ」

「ありさ！？」

「……何をしたいのっ」

「別に、最近面白い事がないから、ただ遊ぶために来ただけだよ」

「……ありさを放してっ！」

「そう簡単に放すと思う？」

「……」

パシッ

（……ありさ、逃げな！）

（えっ……でも、早希が……）

（いいから、逃げてっ）

（……分かった。）

「やっぱり、全然変わってないな。前と同じ。」

「……で、何をしたいの」

「別に、あの時の仕返し」

バコッ

（！缶が潰れた……）

「お前ら、殺れ」

ハアハア…

ガラッ

「ありさ!？」

「ハアハア…」

「どうしたの!？そんなに慌てて…」

「さ、早希が危ないの…」

「早希?…そういえば、さっき男子に呼び出されてから帰ってきてないね…」

「今、早希がこの前マックで話してたあの人が来てて…」
事情を説明した

「ありさは、大丈夫なの？」

「うん。大丈夫。」

バシッ

「…っ」

ボコッ

「…いってー」

「…女のクセにタフじゃん」

「…どーも」

ハア…

「…ウゼッ」

バシッ

「…ぐっ…」

「…止めてーっ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8375e/>

過去の話

2010年12月19日02時21分発行